

平成23年度確かな学力向上のための具体的取組 **評価**

ねらい：確かな学力の向上を図る

「確かな学力」		平成23年度の評価指標と実践課題	学校評価 自己評価B
①知識・技能の習得	○		
②思考力・判断力・表現力の育成	▲	学習への取組 ・基本的学習習慣の確立 ・基礎的・基本的な内容の定着 ・個に応じた指導の工夫 ・読書活動や音読の充実	() 昨年 4 (4)
③学習意欲・学習習慣	○		
「確かな授業力」			
④生徒指導の機能を生かした学習指導	○	諸検査の状況 ・CRT, NRT, 学習状況調査結果の向上	3 (4)
		授業改善の推進 ・「分かる授業」「できた喜び」をめざした学習指導 ・教科に合った「学びのスタイル」の構築 ・小・中連携による授業を見合う会の推進	3 (3)

共通実践事項	具体的な取組	達成状況	備考等(課題▲, 成果○)
① 学力向上を目指した学校間の積極的な連携	<ul style="list-style-type: none"> ・小・中授業参観交流期間の設定 ・年2回の小・中連携総会での研修 ・「9年間を見通した児童・生徒の育成」全体計画の実践 ・「授業を見合う会」の推進 ・市教研に関わる交流授業への積極的な参加 ・自校の研究授業の情報提供 	<ul style="list-style-type: none"> ○(◎) ◎(◎) ◎(○) ○(○) ○(○) ◎(○) 	<ul style="list-style-type: none"> ○中学校との年2回の連携総会, 交流授業や授業を見合う会を実施し, 児童生徒の共通理解のもとに, 学習指導にあたることのできた。 ▲小・中授業参観の時間を確保し, 研修する機会になるよう実施の方法を改善したい。また, 共通実践事項を明らかにした取り組みが必要である。
② 「活用する力」を育てるための授業づくり	<ul style="list-style-type: none"> ①付きたい力を明確にした授業づくり <ul style="list-style-type: none"> ●付きたい力を明確にした単元構成 ・確かに読み取るための「押さえたい言葉」を明確化(教材研究) ●確かに読み取るための発問の工夫 ●根拠をもって自分の考えを表現する場の設定 ・指導と評価の一体化, 評価活動の工夫 ②主体的な学び方を身に付けさせる工夫 <ul style="list-style-type: none"> ・「読み方」手引きの作成と活用。 ・学習の見通しをもたせる単元計画の工夫(言語活動の充実) ・1単位時間の「学びのスタイル」の工夫と実践 	<ul style="list-style-type: none"> ◎ ◎ ▲ ▲ ○ ◎ ○ ○ 	<ul style="list-style-type: none"> ○付きたい力を明確にしたことで, 叙述に即して読む力は伸びてきた。 ▲根拠をもって自分の考えを述べるなど表現する力は, まだ不十分である。また, 基礎基本だけでなく, 発展的な学習に取り組める学習過程の工夫も必要である。

(● 重要な課題であると考えられる具体的な取組)